

3 英雄の涙…『わがシッドの歌』Cantar de Mío Cid

Córdoba を中心に繁栄を誇っていたイスラムスペインは 11 世紀には taifa と呼ばれる群小王国に分裂し弱体化した。一方半島の北からはキリスト教徒による国土回復運動 Reconquista の波が盛んに南進する。これを大きく推進したのがアルフォンソ六世王 (Alfonso VI) である。アルフォンソははじめ西方のレオンの王であったが中央のカスティーリャのサンチョ二世 (Sancho II, 在位 1062-72) が何者かによって謀殺されたためその領土をも支配し、カスティーリャ・レオン国王として君臨した (在位 1072-1109)。



Burgos 市内の Cid 像

●悲痛な冒頭部分

今回取り上げる『わがシッドの歌』(Cantar de Mío Cid) はアルフォンソに仕える武将 El Cid, Rodrigo Díaz de Vivar (【写真 3a】1043?-1099) の事績を高らかに物語る武勲詩であるが、その冒頭は次のようにとても悲しい¹。

¹ 武勲詩の写本の最初の一葉は失われている。テキストは基本的に Menéndez Pidal の伝統的な校訂本 (1969) に従うが、これは学者の知見と解釈力を存分に発

(1)

1	De los sos ojos tan fuertemiente llorando,
2	tornava la cabeça e estávalos catando.
3	Vio puertas abiertas e uços sin cañados,
4	alcándaras vazias sin pielles e sin mantos
5	e sin falcones e sin adtores mudados.
6	Sospiró mio Çid, ca mucho avie grandes cuidados.
7	Fabló mio Çid bien e tan mesurado:
8	"Grado a tí, señor padre, que estás en alto!
9	'Esto me an buelto mios enemigos malos.

【語句】1 **sos** > sus 彼の **-miente** > -mente(副詞の語尾) / 2 **catar** > mirar 見る / 3 **uços** (*stiu, Lat. ostiu) = canceles 内扉 **cañado** > candado かんぬき² / 4 **alcándara** (Ar.) 掛け木 (服を掛けたり, 狩猟用の鳥を止めた) / 5 **falcón** > halcón ハヤブサ **actor** > azor アオタカ **mudados** mudar 羽が生え変わる(アオタカの羽が生え変わる時期は気が立っていて危険であるという) / 6 **sospirar** > suspirar³ **avía aver**⁴ = tenía, tener 持つ **mucho** > muy⁵ とても / 7 **Fabló, hablar** > hablar 話す **mesurado** = comedidamente 慎重に / 8 **grado** = agradecimiento 感謝 (Lat. gra[ti]) / 9 **buelto, bolver** = urdir 画策する。

【訳】1 (シッドは)目からとめどなく涙を流しながら, / 2 振り返って見た。 / 3 (自らの館の)かんぬきはかけずに戸は開いて, / 4 掛け木には皮の衣もマントも, / 5 ハヤブサも, 羽が生え変わったアオタカもいない。 / 6 わがシッドは非常な心痛で溜息

揮したものであるため, 古文書版 (Edición paleográfica) を参考にして少々の変更をほどこした。Menéndez Pidalに批判的な最近の諸版は古文書版により忠実である。Colin Smith (1976), Ian Michael (1989), Alberto Montaner (1993). 日本では橋本一郎 (1979), 岡村一 (1996), 長南実 (1998)がMenéndez Pidal版を, 牛島信明・福井千春 (1994) がMichaelの版を底本に使用している。

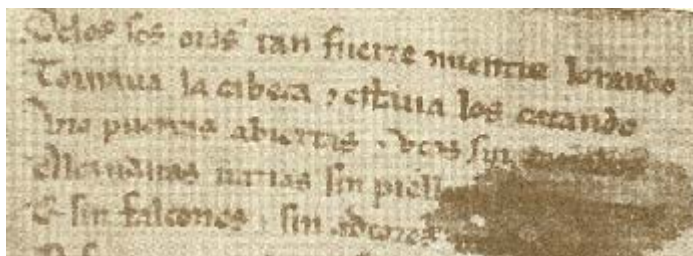
² canta[ti] > candado > cadnado > cannado > cañado.

³ sospirar (Lat. suspre) のoに注意。現代語のsuspirarのuは教養語のためであり, 民衆語ではアクセントのない Lat. uはoとなった。

⁴ averの本動詞の用法。現代語では助動詞の用法が主である。

⁵ Med. muito > Mod. mucho. Mod. muyはmuitoの語尾が脱落した形。

をついた。/ 7 そして思慮深く慎重に言った。/ 8 「天におわします父なる神よ、感謝を捧げます。/ 9 これは私の心悪しき敵どもの仕業でございます」



【写真 3b】Cantar de Mio Cid の冒頭部分

Ministerio de Educacio/n y Ciencias. 1961

「目からとめどなく涙を流しながら」という描写は猛々しい武将Cidにそぐわないように思われるかもしれないが、この武勲詩には荒々しい戦闘場面ばかりでなく、人間の悲しさや優しさを微妙に描く表現が随所に見られる⁶。

伝えられる唯一の写本(【写真 3b】)には最初の一葉が欠損しているため、Cid がアルフォンソ六世の逆鱗(げきりん)にふれ追放された事情が説明されていない。年代記 *Crónica de Veinte Reyes* によれば Cid と戦って破れたある貴族の遺恨による讒言(ざんげん)が原因であるという。このときの英雄の涙は追放という憂き目や家族(妻と二人の娘)との別離の切なさもさることながら、伺候すべき主君の無理解による無念の涙でもあったのだろう。

●分離した未来形

続く章では Cid が自宅のある Vivar 村を去り Burgos 市に入ったものの誰もが王の怒りを恐れ迎えようとしなかったことが語られる。しかし、少数ながら Cid に従う健気

⁶ スペイン文学研究者牛島信明氏はフランスの『ロランの歌』、ドイツの『ニーベルンゲンの歌』と比較し、『わがシッドの歌』の特徴として、「リアリズム(超自然的要素の欠如)」、「個人的生の充足」、「人間的振幅を示すユーモア」、「民主的流動性の中で成り上がる英雄の姿」の4点を挙げている。牛島信明・福井千春(1994), 299-316 頁。歴史的な背景については次が参考になる。リチャード・フレッチャー著、林邦夫訳(1997)。ラモン・メデンデス・ピダル著、安達丈夫訳(2000)。

(けなげ)な部下たちもいた。槍(やり)使いの名将 Martín Antolínez もその一人である。彼は傷心の Cid に次のように忠言する。

(5b)

70	Fabló Martín Antolínez, odredes lo que a dicho:
71	" Ya Canpeador, en buen ora fuerdes naçido!
72	' esta noch yagamos e vayámosnos al matino,
73	' ca acusado seré de lo que vos e servido,
74	' en ira del rey Alffons yo seré metido.
75	' Si convusco escapo sano o bivo,
76	' aun çerca o tarde el rey querer me ha por amigo;
77	' si non, quanto dexo no lo preçio un figo."

【語句】70 **Fabló** > Habló 話した**odredes** > oiréisお聞きください / 71 **fuerdes** > fuisteis / 72 **yagamos** > yazcamos 休みましょう **al matino** = a la madrugada 夜明けに **vayámosnos** > vamonos 行きましょう / 73 **ca** = pues なぜなら / 75 **convusco** > con vos 貴方とともに / 76 **querer me ha** > me querrá 私を愛するだろう / 77 **dexo** > dejo (私は)置いていく**preçio** > aprecio 私は評価する**un figo** > un higo イチジク(ここでは「価値のないもの」を表す⁷⁾。

【訳】70 マルティン・アントリネスは次のように話した。皆さんもお聞きください。 / 71 「ああ、よき時にお生まれになったカンペアドール(シッド)様、 / 72 今夜は休息し、夜明けに出発いたしましょう。 / 73 私は貴方にお仕えしたことで訴えられ、 / 74 王のお怒りに触れることでしょう。 / 75 もし私が貴方とともに無事に脱出できれば、 / 76 いつの日か王も私を味方とお思いになるでしょう。 / 77 たとえそのようにならなくとも、この地に捨てていくものすべてを少しも惜しいとは思いません」

⁷ こうした語による否定文の強調は現代語では口語体に限られる。例: No me importa un comino (*un ardite, un bledo, una chita, una higa, una patata, un pepino, un pimiento, un pito, un pitillo, tres pitos, un rábano, etc.*「私は全然かまわない」cf. W. Beinbauer, p.244) しかし、中世スペイン語ではベルセオ (Gonzalo de Berceo) やイタの主席司祭 (Arcipreste de Hita) など教養ある作者にも自然に使われていた(Menéndez Pidal, 1960, p.109,n.77)。歴史的に見るならば, nada ('cosa nacida'「生まれたもの」) も同様に否定の強調語であった。例: No me importa nada.

ここで語学的な話題に移ろう。今回取り上げるテーマは動詞の未来形である。未来形は現在形や過去形など他の活用形と比べると次の点が異なっている。

①活用語尾が(語根ではなく)不定詞の後につけられる。

cantar-é	cantar-emos
cantar-ás	cantar-éis
cantar-á	cantar-án

②母音が消失する不規則変化がある。

(1) e が消失する動詞 saber		(2) 語尾の e, i が d に変化 poner	
sabré	sabremos	pondré	pondremos
sabrás	sabréis	pondrás	pondréis
sabrá	sabrán	pondrá	pondrán
同種: poder, querer		同種: tener, salir, venir	

(3) 語根が短縮する動詞			
hacer		decir	
haré	haremos	diré	diremos
harás	haréis	dirás	diréis
hará	harán	dirá	dirán

③未来形の意味が「未来」とは限らず、逆に未来のことを述べるときでも未来形が使われるとは限らない。

これらの理由は上のテキストの中に見つかる。現代スペイン語の未来形は不定詞に haber の活用 (he, has, ha, hemos, habéis, han) に由来する未来形語尾 (é, ás, á, emos, éis, án) を結合させて, amar-é, amar-ás, amar-á, amar-emos, amar-éis, amar-án のように作る。元来は「…すべきだ, …のはずである」という「義務・必然性」の意味であったが, 「…だろう, …するつもりだ」という「推量・意志」の意味に変わっ

た。この「…」にあたる部分が不定詞で表され、「推量・意志」の意味は *é, ás, ...* の部分(語尾)に相当する。中世では不定詞と *haber* の活用形が上の 73 行の *seré* のように結合している形と、76 行の *querer ... ha* のようにまだ分離している形があった。

上の 70 行では *oír* の未来 2 人称複数形 *odredes* (< *aud(i)re + edes*) がある。このように *er* 動詞と *ir* 動詞が未来の語尾と結合すると不定詞語尾の *e* と *i* が強勢を失って脱落することがあった。一方口を大きく開く母音 *a* は安定していたため脱落しなかった(例: *llegar-legarán*)。現代スペイン語には *saber-sabré, poder- podré* などのように母音が脱落する動詞, *poner-pondré, salir-saldré* などのように母音が脱落した後に *d* が入る動詞, そして *hacer-haré, decir-diré* という短縮する動詞があるが, 中世スペイン語ではさらに多くの動詞で不規則変化があった。

よって, 先の①の理由はスペイン語の未来形が「不定詞+*haber*の現在活用形」という結合に由来するためである。②の不規則形は古い時期に *er* 動詞と *ir* 動詞の *e* と *i* が弱化し脱落してできた。③については *haber* の形に注目するとわかる。たとえば *amaré* の語尾(*é*)は本来 *haber* の現在形で, 「現在時における推量」を示しているからだと考えられる。(未来時ではなく)現在時のことでも推量の意味を際立たせるときは *Ahora serán las cinco*. 「今は 5 時だろう」のように未来形が使われ, 逆に未来のことでも推量をとくに示さなければ *Mañana voy al mercado*. 「明日私は市場に行きます」のように現在形で表現する。したがっていわゆる未来形は未来時制というよりも「(時制ではない)推量形」と呼ぶこともできる。

●成立年代

『わがシッドの歌』の成立年代はテキストの綿密な校訂を行った Menéndez Pidal によって 1140 年頃とされたが⁸, さらに新しく 13 世紀の初頭とする説もある。後者を主張する学者は 3700 行余りの詩の末尾にある次の 3 行に注目する。

3731 Quien escribió este libro del Dios paraíso, amen!

3732 Per Abbat le escribió en el mes de mayo

3733 en era de mill e .cc xlv. años.

【訳】この書を書いた者に天の栄光あれ, アメン。1245 年 5 月, ペル・アバットこれを記す。

⁸ Ramón Menéndez Pidal (1969).

ここで、mill e .cc xlv という数字は当時のユリウス暦の 1245 年、すなわち西暦 1207 年となる。これを記した Per Abbat は今は失われた作品を単に筆写したのであろうか、それとも当時の伝承を踏まえて創作したのであろうか？この問題は動詞 *escribio* の解釈にかかるとは、作品の年代だけでなく作者さえも特定される可能性があるため重要である。Menéndez Pidal はこの 3 行を筆写生の付記にすぎないとし、本文には入れていない。一方、彼がそのオリジナルの制作年代を 1140 年頃とするのは次の詩行による。

3722 Ved qual ondra creçe al que en buen ora nació,
3723 quando señoras son sus hijas de Navarra e de Aragón!
3724 Oy los reyes d'España sos parientes son.

【語句】 3722 **ondra** > honra 名誉 / 3724 **Oy** > hoy 今日.

【訳】見よ、よき時に剣を帯びし人(シッド)の名誉がいや増す様を。彼の娘は今やナバラとアラゴンの妃となられた！そして今日ではスペインの諸王は彼の親戚なのだ。

3724 行はNavarra王家に嫁いだCidの娘Cristinaの孫にあたるBlancaがCastillaのSancho III世と婚約した 1140 年のことを指している⁹。

このように成立年代について対立する説がある。また、先に見た英雄の「涙」は当然創作であって、歴史上のCidの人物像については毀誉褒貶(きよほうへん)がある。そして今回取り上げたスペイン語の動詞未来形の分析も文法学者の間で必ずしも一致しているわけではない。どのような問題でも排他的な見解は研究の発展を妨げることになるので、対象と論点を相対化し見渡すことができる柔軟な姿勢が必要だ。

⁹ Menéndez Pidal (1908, 44, 76, pp.21-22)はこの年 1140 年をCantar de Mio Cidの成立年代の上限に定めている。Colin Smith (1980: 349)は、(...) no se puede usar el verso 3724 del poema (sobre el cual se ha hecho correr mucha tinta) para establecer la fecha de éste, ya que se trata de una afirmación puramente encomiástica, y no de un dato históricamente exacto.と述べ、この説を一蹴している。詳細はColin Smith (1983, 1985), cap. IIを参照。

■課題テキスト

(1)

[前掲]

(2)

10	Allí pienssan de aguijar, allí sueltan las riendas.
11	Ala exida de Bivar ovieron la corneja diestra,
12	e entrando a Burgos oviéronla siniestra.
13	Meçió mio Çid los ombros e engrameó la tiesta:
14	"Albricia, Álbar Fáñez, ca echados somos de tierra!
14b	[' Mas a grand ondra tornaremos a Castiella.] "

【語句】11 **exida** = salida 出口 / 11 **ovieron** = tuvieron 持つ **diestra** = derecha 右 / 12 **siniestra** > izquierda 左 / 13 **engrameó**, engramear = sacudir 振る **tiesta**¹⁰ = cabeza 頭 / 14b **grand** > gran 大いなる¹¹ **ondra** > honra 名誉 **tornar** = volver.

●文字と発音

原本の書き方を尊重した校訂版で用いられる文字の発音の大部分は現代語と同じ発音でかまわない。しかし一部は現代語にはない中世スペイン語の音韻を表している。次の文字に注意したい。

- **ss** /s/: 日本語の「ス」/su/. pienssan /piénsan/, oviessse /oviése/.
- **s** /z/: 母音の間では日本語の「ズ」/zu/の発音. mesurado /mezurado/, osava /osáva/, posada /pozáda/. その他の位置では/s/となる。sos /sos/, esto /ésto/.
- **x** /ʃ/: 日本語の「シュ」/syu/, 英語の sh. exida /eʃída/, çinxo /tsínʃo/, dexar /deʃár/.
- **j, g** (+e, i) //: 日本語の「ジュ」, 英語の pleasure の /ʃ/. ojos /óʃos/. ç /ts/: 日本語の「ツ」/tsu/, 英語の cats. Çid /tsíd/, cabeça /kabétsa/
- **z** /dz/: 日本語の「ズ」/zu/, 英語の ds (cards). razón /radzón/, fazer /fadzér/. ただし、語末では/ts/. Díaz /díats/.

¹⁰ cf. Fr. tête; It. testa.

¹¹ 現代語の grande の語尾脱落形 gran は、このように中世スペイン語の語末の母音 -e の脱落に始まる。grande > grand > gran.

(3)

15	Mio Çid Ruy Díaz por Burgos entrava,
16	En sue conpañas sessaenta pendones; Exien lo ver mugieres e varones,
17	burgeses e burgesas por las finiestras son,
18	plorando de los ojos, tanto avien el dolor.
19	De las sus bocas todos dizían una razón:
20	" Dios, qué buen vassallo, si oviesse buen señor! "

【語句】16 **sessaenta** > sesenta 60 の **Exien** exir = salir 出る / 17 **burgeses** 町の人々 **finiestra**¹² = ventana 18 **plorando** plorar > llorar 泣く 19 **avien** > tenían 20 **si** 願望をあらわす接続詞。

●アラゴン方言

『わがシッドの歌』の原作者は現在の Soria 県の Medinaceli あたりの人であろうと考えられる。ここは 12 世紀になってはじめて再征服された土地で, Castilla 王国から見ればアラゴン方言(aragonés)が話される辺境の地であった。18 **plorando** の語頭の pl の保持はアラゴン方言の特徴で, Castilla ではすでに pl->ll-の変化が完了していた。この作品には両者が混在している (cf. 1 llorando)。

(4)

21	Conbidar le ien de grado, mas ninguno non osava:
22	el rey don Alfonsso tanto avie la grand saña.
23	Antes de la noche en Burgos dél entró su carta,
24	con grand recabdo e fuertemientre sellada:
25	que a mio Çid Ruy Díaz, que nadi nol diessen posada,
26	e aquel que gela diesse sopiesse vera palabra
27	que perderie los averes e más los ojos de la cara,
28	e aun demás los cuerpos e las almas.

¹² Lat. fenestra, cf. Fr. fenêtre.

【語句】21 **conbidar** > convidar 招く¹³ **de grado** 喜んで (=de buena gana) / 22 **saña** = enojo 怒り / 24 **recabdo** > prevención 用心 (Lat. recapitre) / 25 **nadi** > nadie 誰も...ない (Lat.natu)¹⁴ **nol** > no le¹⁵ / 26 **gela** > se la¹⁶ **vera vero** > verdadero 真の / 27 **perderie** > perdería 失うだろう **aver** = lo suyo, hacienda 財産 / 28 **aun demás** > además さらに.

(4b)

29	Grande duelo avien las yentes christianas;
30	ascóndense de mio Çid, ca nol osan dezir nada.
31	El Campeador adeliñó a su posada;
32	así commo llegó a la puerta, fallóla bien çerrada,
33	por miedo del rey Alfonsso, que assí lo avien parado:
34	que si non la quebrantás, que non gela abriesse nadi.
35	Los de mio Çid a altas voces llaman,
36	los de dentro non les querien tornar palabra.
37	Aguijó mio Çid, a la puerta se llegava,
38	sacó el pie del estribera, una ferídal dava;
39	non se abre la puerta, ca bien era çerrada.

【語句】29 **grande** > gran 大きな **duelo**¹⁷ > dolor 苦しみ **yentes** > gentes 人々¹⁸ / 30 **ascóndense** ascondere > escondere 身を隠す **ca** = pues なぜなら **nol** > no le

¹³ Conbidar le ien は分離過去未来形。不定詞 conbidar と aver の活用形 (ien) の間に代名詞 le が介入している。

¹⁴ nadi は後に nadie という形で定着したが (15 世紀頃), 最初は否定文の中で no と共に用いられた。現代語では nadie のような否定語が動詞の前にあると no は使われない。語源は homines nati で「生まれた者」すなわち「誰でも」という意味。

¹⁵ nol は no と le の結合したもので, 弱勢の代名詞は強勢形の支えが必要であったためである。結合した後, 一語となった nole は語尾の -e を落とした。

¹⁶ Lat. ille illa > Med. gela > Mod. se la. 一方, 現代語の再帰代名詞の se は Lat. se を受け継いだものである。

¹⁷ 動詞 doler からできた派生名詞 (postverbal)。

¹⁸ yentes cristianas は「皆」という意味。否定文によく使われ, そのときは「誰も...ない」という意味になる。

dezir > decir 言う / 31 **adeliñar** = encaminarse 進む (Lat. ad-delinere) / 32 **fallóla** = la encontró それを見た / 33 **avien parado** > habían dispuesto そのようにしておいた / 38 **estribera** > estribo あぶみ¹⁹ **ferídal dava** > herida le daba 叩いた, 蹴った / 39 **era çerrada** > estaba cerrada 閉まっていた²⁰。

●子音 f-

『わがシッドの歌』では現代語では無音 (h-で書かれる) となる語頭の f- がまだ保たれている(32 falló)。f- は 15-16 世紀に氣息音²¹となって, さらに無音化したのが, 途中の段階の [h] 音は現在でもアンダルシアやラテンアメリカの一部の地域で聞かれる。

(4c)

40	Una niña de nuef años a ojo se parava:
41	" Ya Campeador, en buena ora çinxiestes espada!
42	' El rey lo a vedado, anoch dél entró su carta,
43	' con grant recabdo e fuertemiente sellada.
44	' Non vos osariemos abrir nin coger por nada;
45	' si non, perderiemos los averes e las casas,
46	' e demás los ojos de las caras ²² .
47	' Çid, en el nuestro mal vos non ganades nada;
48	' Mas el Criador vos vala con todas sus vertudes santas."
49	Esto la niña dixo e tornós pora su casa.

【語句】40 **nuef** > nueve 9 の²³ **se parava** pararse = plantarse 立つ²⁴ / 41 **Ya** = (Ar.) Oh! ああ! ²⁵ **çinxiestes** (強変化)> ceñiste(弱変化)(剣を)帯びる / 42 **vedar** =

¹⁹ **estribera** は女性名詞だが, 冠詞el (de+el) がついている。このように母音の前では la ではなく el が使われる。現代語ではアクセントのある母音aに限られる。例 el agua 水, el hacha 斧 (おの)。

²⁰ 当時はまだ **ser** と **estar** の意味が分化していないことがわかる。

²¹ aspiración. 日本語の「ハ」の子音 [h]。

²² las caras は現代語ならば la cara となるところ。意味による一致である。

²³ **nueve** > **nuev** > **nuef**. 語末の母音 -e が脱落して, v が無声化した。必ずしも **nuev** という中間段階を通過したと実証されるわけではないが, ve > f には語尾 -e

prohibir 禁じる / 44 **coger** > **acoger** 迎える / 48 **vala** (規則変化) **valer** > **valga** (不規則変化) (神が)お守りなさいますように **vertudes** > **virtudes**²⁶ 徳 / 49 **dixo** > **dijo** 言った **pora** > **para**... ...に向かって²⁷。

(4d)

50	Ya lo vee el Çid que del rey non avie graçia.
51	Partiós dela puerta, por Burgos aguijaua,
52	llegó a Santa María, luego descavalga;
53	fincó los inojos, de coraçón rogava.
54	La oraçión fecha , luego cavalgava;
55	salió por la puerta e Arlançón passava.
56	Cabo essa villa en la glera posava,
57	fincava la tienda e luego descavalgava.
58	Mio Çid Ruy Díaz, el que en buen ora çinxo espada,
59	posó en glera quando nol coge nadi en casa;
60	derredor dél una buena conpañã.
61	Assí posó mio Çid commo si fuesse en montaña.
62	Vedada l'an compra dentro en Burgos la casa
63	de todas cosas quantas son de vianda;
64	non le osarien vender al menos dinarada.

【語句】 50 **vee** **veer**²⁸ > **ve**, **ver** 見る / **avie** > **tenía** 持っていた。 / 52 **luego** = **inmediatamente** すぐに²⁹ / 53 **fincó** **fincar** > **hincar** 打ち込む **inojo** (Lat.

の脱落と無声化 (v>f) という2つの過程がこの順で論理的に想定されなければならない。

²⁴ **pararse**「立つ」はアカデミア辞書によれば現代EspanñaのMurcia, そしてラテンアメリカ一般にある語義 ('estar' o 'ponerse de pie')。確かにMéxicoの学者Bolaño e Islaはこの行を Una niña de nueve años se le acercó, **parándose** ante él. と訳している(太字は筆者)。

²⁵ cf. **ya omne dolje**, ハルチャ Stern 22.

²⁶ **e** は民衆語, **i** は教養語の特徴である。

²⁷ 現代語の **para** は **por** に **a** がついた合成語に由来する。この **a** という要素によって, **por** にはない「目的」や「方向」の意味がある。例: **No tengo tiempo para leer**. 私は読書をする時間がない。 **el tren para París** パリ行きの列車。

genuculu) = rodilla 膝 / 56 **cabo...** (前置詞)= junto a... ...のそばで / 60 **derredor**
> alrededor 回りで³⁰ / 64 **dinarada** 一人あたりの一日分の食料³¹。

●セディーリャ (ç)

先に見たように中世の文献には現代語で使われていない文字が1つある。Cの下にひげがついた文字で、スペイン語でこれをcedillaといった。「小さなceda (=zeta)」という意味で³², Cの下についた記号のことである。ラテン語にはなかった /ts/の音を表すために 13 世紀のスペインのビシゴード人が工夫したものである³³。

(5)

65	Martín Antolínez, el Buralés conplido,
66	a mio Çid e a los suyos abátales de pan e de vino;
67	non lo compra, ca él se lo avie consigo;
68	de todo conducho bien los ovo bastidos .
69	Pagós mio Çid el Canpeador e todos los otros que van a so çervicio.

【語句】65 **Buralés** ブルゴスの人 (Burgos) / 68 **conducho** 旅に必要な糧秣 / 69 **pagós** pagarse = contentarse 満足する³⁴ **çervicio** > servicio 奉仕 / 70 **Fabló** hablar > hablar **odredes** > oiréis 諸君は聞くだらう(耳を傾けよ)³⁵

²⁸ Mod. veo (直説法・現在・1 人称単数) と Mod. veía (直説法・線過去・1.3 人称単数) の-e-は古形veerの-e-に由来する。

²⁹ Lat. loco すぐに。luegoの「後で(después)」の意味は後に発達したもので、とくに 16 世紀以降に見られる。

³⁰ derredor の他に aderredor, en derredor の形もあった。現代語の alrededor は al + derredor に由来し、deとreの音位転換を経て出来た。

³¹ 1ディネーロ (dinero, 当時の貨幣の単位) で買える食料。現代語の dinero「お金」はLat. denarius「銀貨」に由来する。

³² 語尾の -illa は指小辞 (diminutivo) である。

³³ 今日ではフランス語で使われるが (セディーユ), これは 16 世紀にスペイン語から借用したものである。

³⁴ pagar は他動詞では「満足させる」の意味で、これが「借金の相手を満足させる」から現代語の「払う」という意味になった。英語の pay も、同語源 (Lat.pacre) の古フランス語の payer「満足させる」に遡る。なお, Lat. pacre は Lat. pax (平和)から派生した動詞である。

³⁵ Lat. audi[re]. 不定詞は oyr (oir)であるが, 未来形語幹にラテン語源の -d- が

(5b)

[前掲]

(6)

78	Fabló mio Çid, el que en buen ora çinxo espada:
79	" Martín Antolínez, sodes ardida lança!
80	' si yo bivo, doblar vos he la soldada,
81	' Espeso e el oro e toda la plata,
82	' bien lo vedes que yo no trayo nada,
83	' huebos me serié pora toda mi compañía;
84	' fer lo e amidos, de grado non avrié nada.
85	' Con vuestro consejo bastir quiero dos arcas;
86	' inchámoslas d' arena, ca bien serán pesadas,
87	' cubiertas de guadalmeçí e bien enclaveadas.

【語句】79 **sodes** > sois 汝は...である **ardido** = valiente 勇敢な / 80 **doblar vos he** > os doblaré(分離未来形) / 81 **Espeso** (過去分詞), **espende** > Mod. **despender** 消費する³⁶ / 82 **vedes** > véis 汝は見る **trayo** > traigo 私は運ぶ / 83 **huebos** (Lat. opus) = necesidad 必要³⁷ / 84 **fer** > hacer する **amidos** = de mala gana いやいやながら, 仕方なく **de grado** = gustosamente 喜んで / 85 **bastir** = preparar 用意する / 86 **inchamos** **inchar** > **hinchar** 膨らませる / 87 **guadalmeçí** > **guadamecí** モロッコ革。

●強変化動詞

現代スペイン語の点過去には弱変化と強変化の2種類がある。弱変化は規則変化と語根母音変化を含む。

残っている。

³⁶ **Espeso e** > **He gastado**. 直接の目的語は **el oro** であるため, **espeso** という男性・単数形が使われている。**e toda la plata** は文が一度完成した後に付加された句で枠外構文であるため, **espeso** の変化には関与しない。

³⁷ 非人称構文。**huebos me serié** は現代語の **me sería necesario** 「私には必要だ」に対応する。**aver huebos de ...** という人称形もよく使われる (後述, 123 行)。

ar 動詞 cantar		er 動詞 comer	
canté	cantamos	comí	comimos
cantaste	cantasteis	comiste	comisteis
cantó	cantaron	comió	comieron

これに対して、強変化動詞の活用は語根も語尾も次のような特徴がある。

語尾		例: saber	
-e	-imos	supe	supimos
-iste	-isteis	supiste	supisteis
-o	-(i)eron	supo	supieron

強変化では語根(sup-)は変化しない。「わがシッドの歌」には次のような強変化動詞が見られる。aduxo (aduzir), andido (andar), cinxo (çenir), crovo (creer), dixo (dezir), estido (estar), fizo (fazer), fue (ir), nazco (naçer), ovo (aver), plogo (plazer), priso (prender), pudo (poder), puso (poner), respuso (responder), sopo (saber), tovo (tener), vino (venir), visco (vivir), yogo (yazer). aver を例にとれば次のように活用する。

aver	
ove	ovimos
oviste	oviestes ³⁸
ovo	ovieron

なお、-ra 形の過去完了, 接続法過去, 接続法未来も同じ強変化語幹になる。

³⁸ oviestes は作品中には現れないが、他の動詞の語尾を考えれば (fazer-fiziestes, dezir-diziestes, etc.), この形が想定できる。

(7)

88	' Los guadameçís vermejos e los clavos bien dorados.
89	' Por Raquel e Vidas vayádesme privado:
90	' quando en Burgos me vedaron compra e el rey me a airado,
91	' non puedo traer el aver, ca mucho es pesado,
92	' enpeñar gelo he por lo que fuere guisado;
93	' de noche lo lieven, que non lo vean christianos.
94	' Véalo el Criador con todos los sos santos,
95	' yo más non puedo e amidos lo fago."

【語句】89 **privado** = en seguida すぐに / 90 **quando** > cuando ...のとき (ここでは原因を示す, ...なので) **vedar** > prohibir 禁じる **ayrar** > airar 怒る / 91 **mucho** > muy とても / 92 **enpeñar gelo e** それを質に入れよう **fore** > fuere **guisado** > justo, conveniente 正しい, 適切な **lieven** > lleven 彼らは運ぶ / 95 **fago** > hago (私は) する。

●3人称代名詞の目的格

対格(直接目的語)では男性lo (<Lat. illum)と女性la (<Lat. illam)を区別した。与格では男女ともle(Lat. ill)となる。後のレイスマはまだ稀であった。3人称の与格+3人称の対格はgeloとなったが、これはLat. ill illum > (i)lliello > gelloという音韻変化の結果である。-llo > -loは他の対格のloの類推による。そして、中世後期(14世紀)になってge-が再帰代名詞のseの影響でse loとなった³⁹。

(8)

96	Martín Antolínez non lo detardava
97	passó por Burgos, al castiello entrava,
98	por Raquel e Vidas apriessa demandava.

【語句】96 **detardar** = retardar 遅れる / 97 **castiello** > castillo 城 / 98 **apriessa** > de prisa 急いで **demandar** = buscar 探す。

³⁹ 他に g (// > //) と s /s/ の音声的な類似も原因の1つと考えられる。R. Menéndez Pidal, *Gram. Hist.*, p.254.

●音韻変化 ie > i

Med. castiello, apriessa⁴⁰ は現代語で castillo, (de) prisa となった。castiello > castillo は語尾の -llo /o/ の硬口蓋音に吸収されたためである。同じことが apriessa についてもいえる。つまりカスティーリャ語の /s/ の発音は舌先歯茎音 (apicoalveolar) で硬口蓋音性が強い⁴¹。

(9)

- | | |
|-----|--|
| 100 | Rachel e Vidas en uno estavan amos, |
| 101 | en cuenta de sus averes, de los que avien ganados. |
| 102 | Llegó Martín Antolínez a guisa de membrado: |
| 103 | "O sodes, Raquel e Vidas, los mios amigos caros?" |
| 104 | ' En poridad fablar querría con amos. ' |
| 105 | Non lo detardan, todos tres se apartaron. |

【語句】100 **amos** > ambos 二人 / 101 **avien** > habían / 102 **a guisa**⁴² **de** = a manera de のように / 103 **membrado** = prudente 慎重な **o** (Lat. unde) > dónde どこに **sodes** > sois⁴³ **caros** = queridos 親愛なる⁴⁴ / 104 **poridad** = secreto 秘密。

(9b)

- | | |
|-----|---|
| 106 | " Rachel e Vidas, amos me dat las manos, |
| 107 | ' que non me descubrades a moros nin a cristianos; |
| 108 | ' por siempre vos faré ricos, que non seades menguados. |

⁴⁰ Lat. castellu(m), appressa.

⁴¹ 確かに日本人の耳には「シュ」のように聞こえる。prisa「プリシャ」。なお、スペイン南部やラテンアメリカでは日本語や英語の /s/ と同じ舌面歯茎音 (dorsoalveolar) であり、ふつうに「ス」と聞こえる。

⁴² ゲルマン語の wi[]sa に由来し、英語の wise, guise と同語源。英語の例: in like wise 同様に, clockwise 時計回りに, lengthwise 縦に, in the guise of a beggar こじきの身なりをして。

⁴³ ser で「所在」を示した。現代語では estar を用いる。¿Dónde estáis?

⁴⁴ cf. Fr. cher 親愛なる。

109	' El Canpeador por las parias fue entrado ,
110	' grandes averes priso e mucho sobejanos,
111	' retovo dellos quanto que fue algo;
112	' por en vino a aquesto por que fue acusado.

【語句】106 **me dat** > dadme 私に与えよ / 107 **no me descubrades** > no me descubráis 私を (人に) 教えてはならない / 108 **por siempre** > para siempre⁴⁵ / 112 **por en (ende)** = por eso, por lo tanto それゆえ **aquesto** = esto このこと **por que fue acusado** 彼が訴えられることになった理由⁴⁶。

●弱勢代名詞の位置

弱勢代名詞 *me* は動詞の前に来ているが、これは前に *amos* という強勢の名詞があるからである。このように弱勢代名詞は休止の後には起こらなかった。動詞との関係で言えば、現代語で動詞の後につくのは、動詞が不定詞、現在分詞、肯定命令形であるときに限られる。肯定命令 (*Dame.*) と否定命令 (*No me des.*) で代名詞と動詞の相対的な位置が異なるのは否定語 *No* があるためである。

●校訂版 (edición crítica)

(1)の前掲のテキストには校訂がほどこされているが(*edición crítica*)、原本に忠実な古文書版(*edición paleográfica*)では次のように転記されている⁴⁷。

1 De los sos ojos tan **fuerte mientre** lorando,
 2 tornaua la cabeça estava **los** catando.
 3 Vio puertas abiertas uços sin cañados,
 4 alcándaras vazias sin pieles e sin mantos
 5 E sin falcones sin adtores mudados.
 6 Sospiro **myo Çid**, ca mucho **auie grandes** cuidados.
 7 **Ffablo myo Çid bien** tan mesurado:

⁴⁵ *pora* から変化した *para* が現れるのはさらに後の 13 世紀中頃である。

⁴⁶ 現代語の関係文では、*Vino a esto por lo que* のように定冠詞が必要。

⁴⁷ R. Menéndez Pidal (1969a). これに句読点 (., ; ! ?) と引用符 (" ") が補われている。

- 8 "Grado **ati**, señor padre, **que** estas en alto!
9 "Esto me an buelto myos enemigos malos."

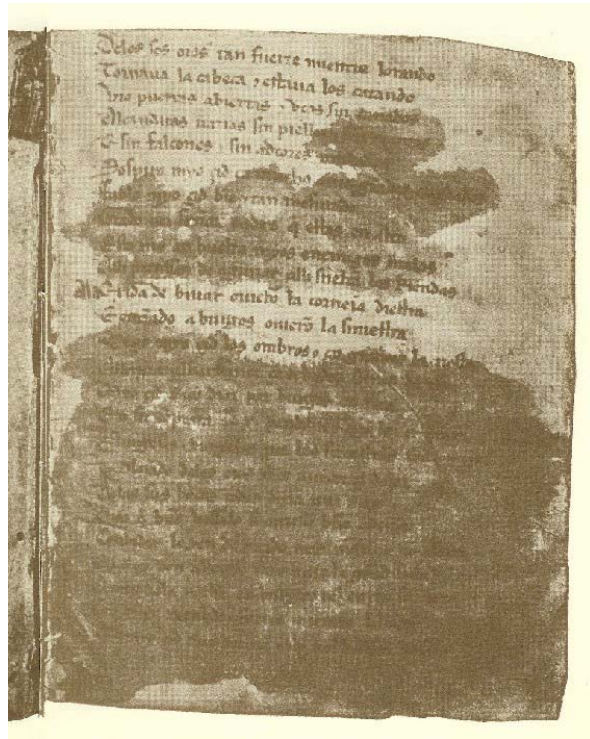
二つのテキストを対比すると母音字の u-v (6 auie-avie), y-i (6, 7 myo), 子音字の l-ll (1 lorando-llorando), Ff-f (7 Ffablo-fabló)の違いがある。アクセント記号もなかった(6 Sospiro, 7 Flablo)。また, 1 fuerte mientras (fuertemientras), 2 estava los (estávalos), 8 ati (a tí)のように語の切れ目も曖昧であった。イタリック体の部分は校訂者による補充である(6 grandes, bien, que)。このように当時のスペイン語には今日のような厳格な正書法はなかったので, 校訂を経たテキストを使うほうが便利である。ただし単純に現代語の正書法に変えてしまうと当時の音韻や形態の差異が不明になるので, スペイン語史のテキストとしてはその区別が残るように配慮しなければならない。

【課題 3a】 歴史の概説書からレコンキスタの進展を調べ, それと現代スペイン語の方言区画との関係を述べなさい。

【課題 3b】 史実と Cantar de Mío Cid の筋と映画『El Cid』(Anthony Mann 監督, 1961) の展開を比較しなさい。

【課題 3c】 次の写本の状態について調べたことや気づいたことなどを述べなさい

48



Ministerio de Educacio/n y Ciencias. 1961

【参考文献】

Bolaño e Isla, Amancio. *Poema de Mio Cid. Versión antigua con prólogo y versión moderna*. México. Editorial Porrúa. 1972.

長南実訳. 1998 『エル・シードの歌』 岩波文庫.

Fletcher, Richard. 1989. *The quest for El Cid*, London. リチャード・フレッチャー著, 林邦夫訳. 1997. 『エル・シッド. 中世スペインの英雄』 法政大学出版会.

橋本一郎. 1979. 『わがシッドの歌』 大学書林.

Menéndez Pidal, Ramón. 1969a. *Cantar de Mio Cid. Vol. III. Texto del Cantar y adiciones (Edición paleográfica)*. 4^a ed. Madrid: Espasa-Calpe.

⁴⁸ cf. Ian Michael (1989), pp.52-56..

- Menéndez Pidal, Ramón. 1969b. *Cantar de Mio Cid. Texto, gramática y vocabulario*. Madrid. Espasa-Calpe.
- Menéndez Pidal, Ramón. ラモン・メデンデス・ピダル著, 安達丈夫訳. 2000. 『エル・シッド・カンペアドル』 文芸社.
- Michael, Ian. *Poema de Mio Cid*. 1989. Madrid: Castalia.
- Ministerio de Educación y Ciencias. 1961. *Poema de Mio Cid. Edición facsímil del códice de Per Abat, conservado en la Biblioteca Nacional*.
- Montaner, Alberto. *Cantar de Mio Cid*. 1993. Barcelona: Crítica.
- 岡村一訳. 1996 『スペイン武勲詩. わがシッドの歌』 近代文芸社.
- Smith, Colin. 1976. *Poema de Mio Cid*. Madrid: Catedra.
- _____. 1983. *The Making of the “Poema de Mio Cid”*. 1985. *La creación del “Poema de Mio Cid”*. Barcelona. Editorial Crítica.
- 牛島信明・福井千春. 1994. 『わがシッドの歌』 (スペイン中世・黄金世紀文学選集 1) 国書刊行会.

FIN